

TBLTの知見を活かした日本語教育実践 —タスク・デザインとその振り返りを中心に—

講師：百濟 正和 氏

(英国カーディフ大学現代語学部日本学科・准教授兼日本学科長)

開催日時：2016年7月30日(土) 15:00 - 17:00

会場：上智大学四谷キャンパス 12号館 1階 12-102 教室

対象：日本語・言語教育全般に関心のある教員および学生(学外可)

参加方法：事前申込不要・参加費無料

(会場定員に達し次第、受付を終了させていただきますのでご了承ください)

TBLTには、SLA(第二言語習得研究)と教育学という2つの異なるDNAがあるとされています(Bygate 2015)。この講演では、教育学から見たTBLT、特に教育実践の積み重ねとその振り返りから生まれた示唆・知見をもとに、TBLTの一つのアプローチを提案します。近年日本語教育のアプローチとして、課題(タスク)遂行や内容重視の言語教育(CBI)が注目されています。一般的にTBLTは、内容重視の言語教育の一形態と捉えることができます。そして内容重視の言語教育を実現するために、課題(タスク)を設定し、その課題を遂行しながら、同時に言語能力の向上を目指すアプローチです。

この講演では、まずこの言語教育アプローチを支える言語観、及び言語学習観を整理し、タスクとTBLTの定義を提示します。そして、カーディフ大学現代語学部日本研究プログラムでの日本語教育実践を例にとり、タスクとそのシラバス・デザインの一例とそのデザインの際に留意するポイントを提示します。最後に、タスクとその実践の理解を深めるために、どのような振り返りが可能になるかについて提案する予定です。

講演者紹介

略歴：ロンドン大学教育学研究所(Institute of Education, University of London)修士課程修了後の2000年に日本語講師(Language Instructor)としてカーディフ大学(日本研究センター)に着任。現在、現代語学部日本学科・准教授(Senior Lecturer)、兼日本学科長(The Director of Japanese Studies Programme)。専門は、日本語教育学、特にタスク中心の言語教育実践とその実践研究。主な著書・論文は、『第二言語習得研究と言語教育』(畑佐一味、畑佐由紀子、百濟正和、清水崇文編 2012)と「TBLTの日本語教育への応用と実践：タスク統合型の言語教育デザインに向けて」『第二言語としての日本語の習得研究』(16), 74-90, 2013 などがある。



主催：上智大学言語教育研究センター

[お問い合わせ] TEL: 03-3238-3699 E-mail: info_cler@sophia.ac.jp